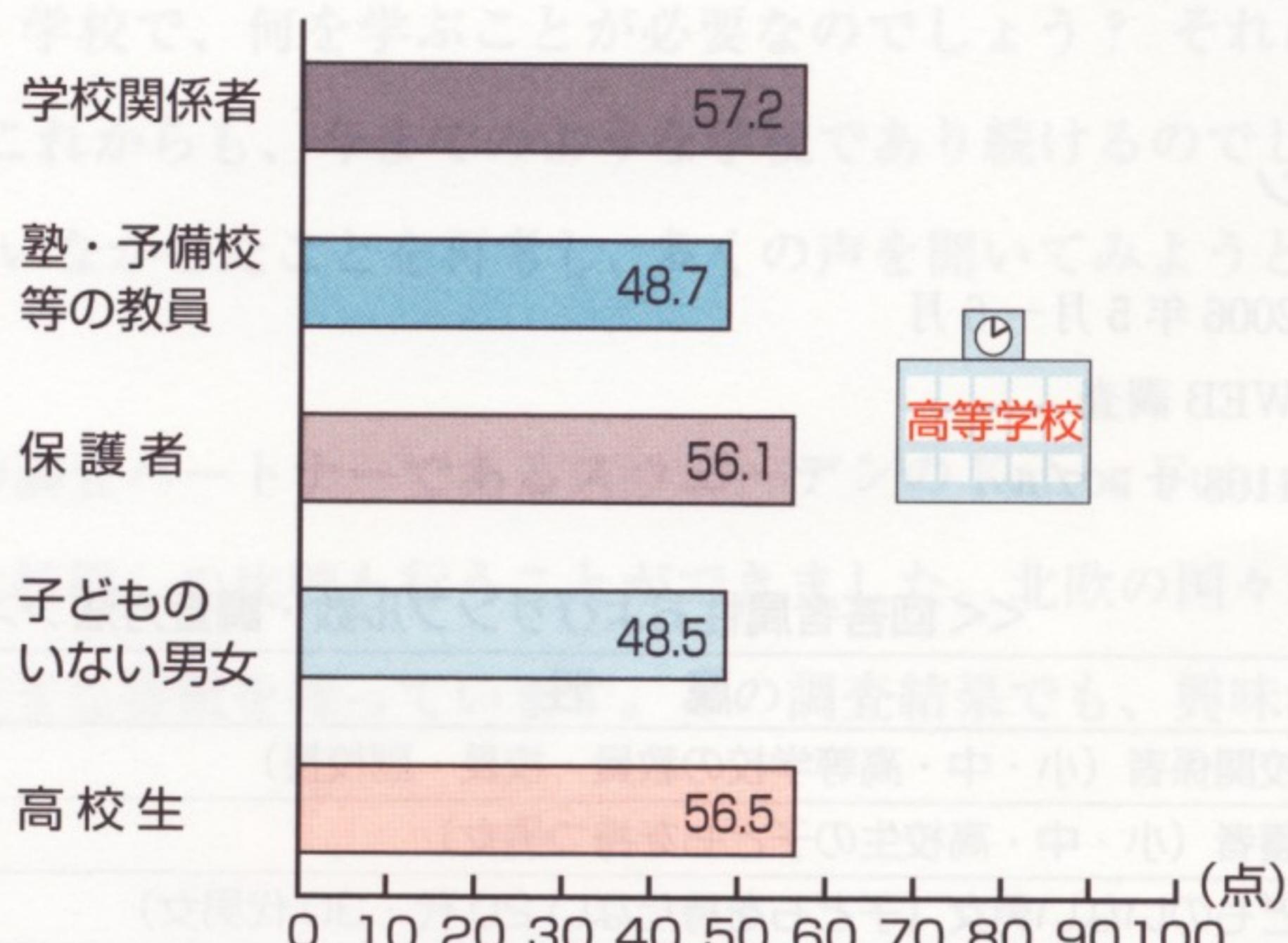
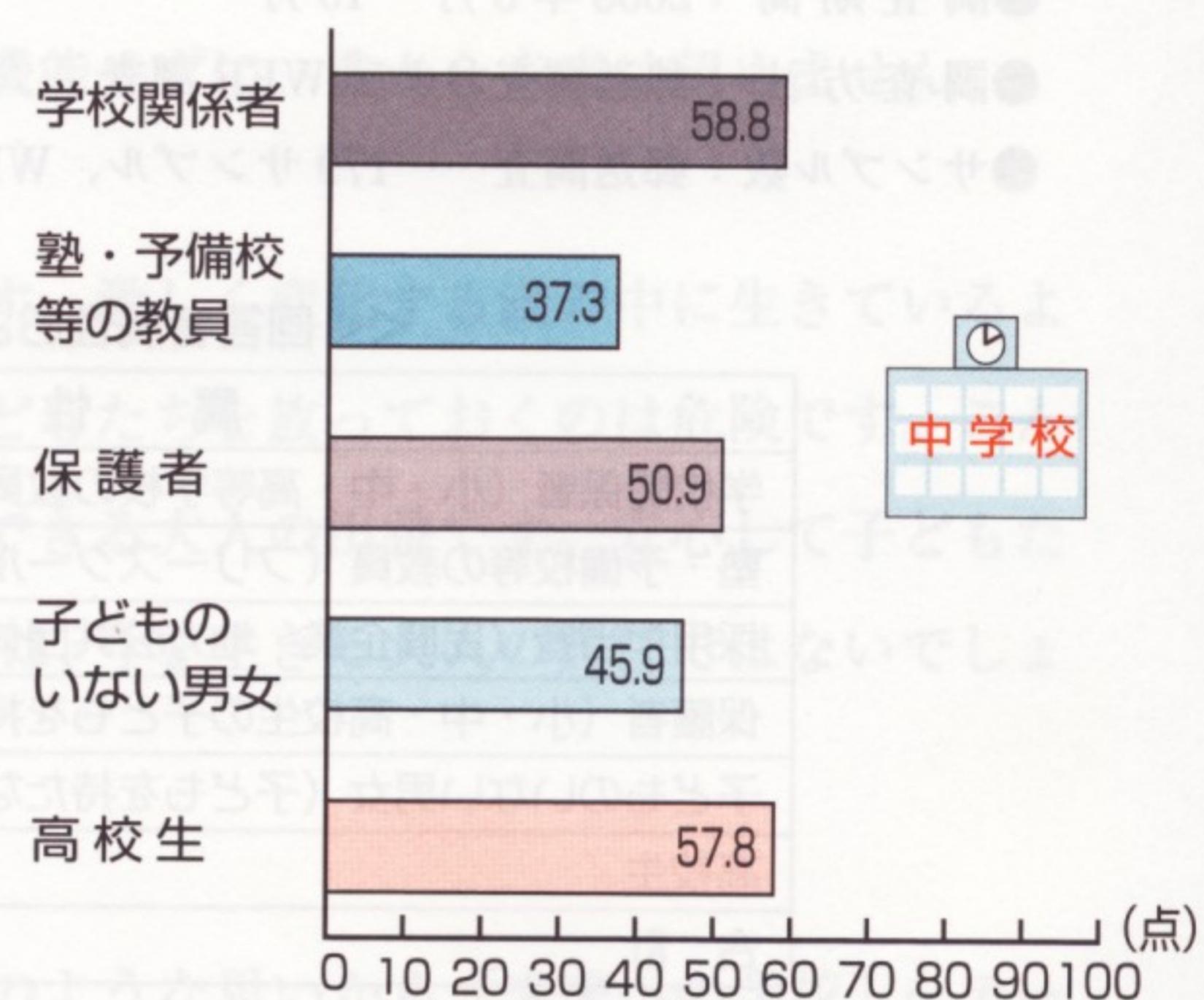
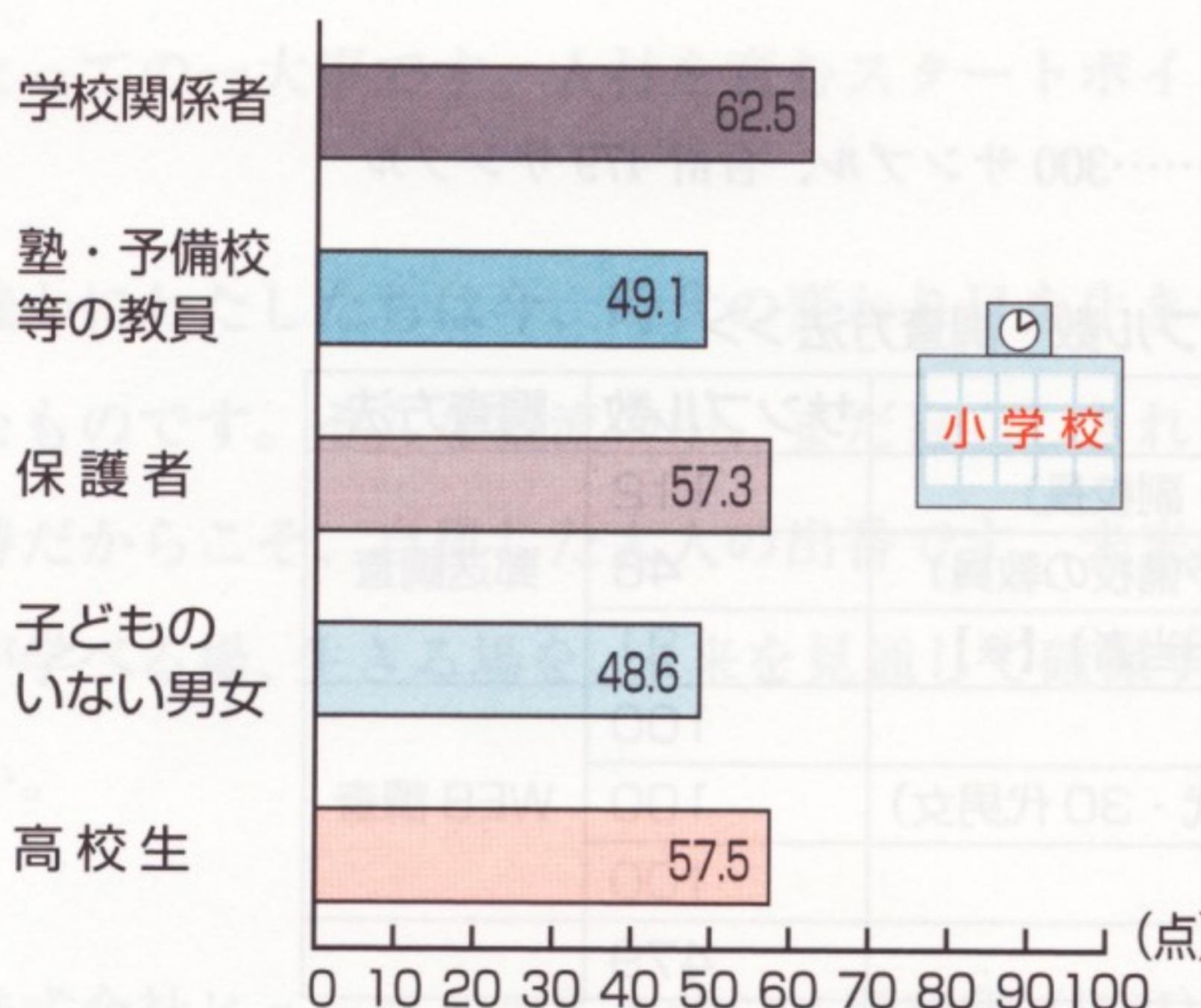


● 日本の学校は合格点に達しているか？

Q. あなたは現在の日本の学校にどの程度満足していますか。

※ 小学校、中学校、高等学校それぞれについて 100 点満点で評定



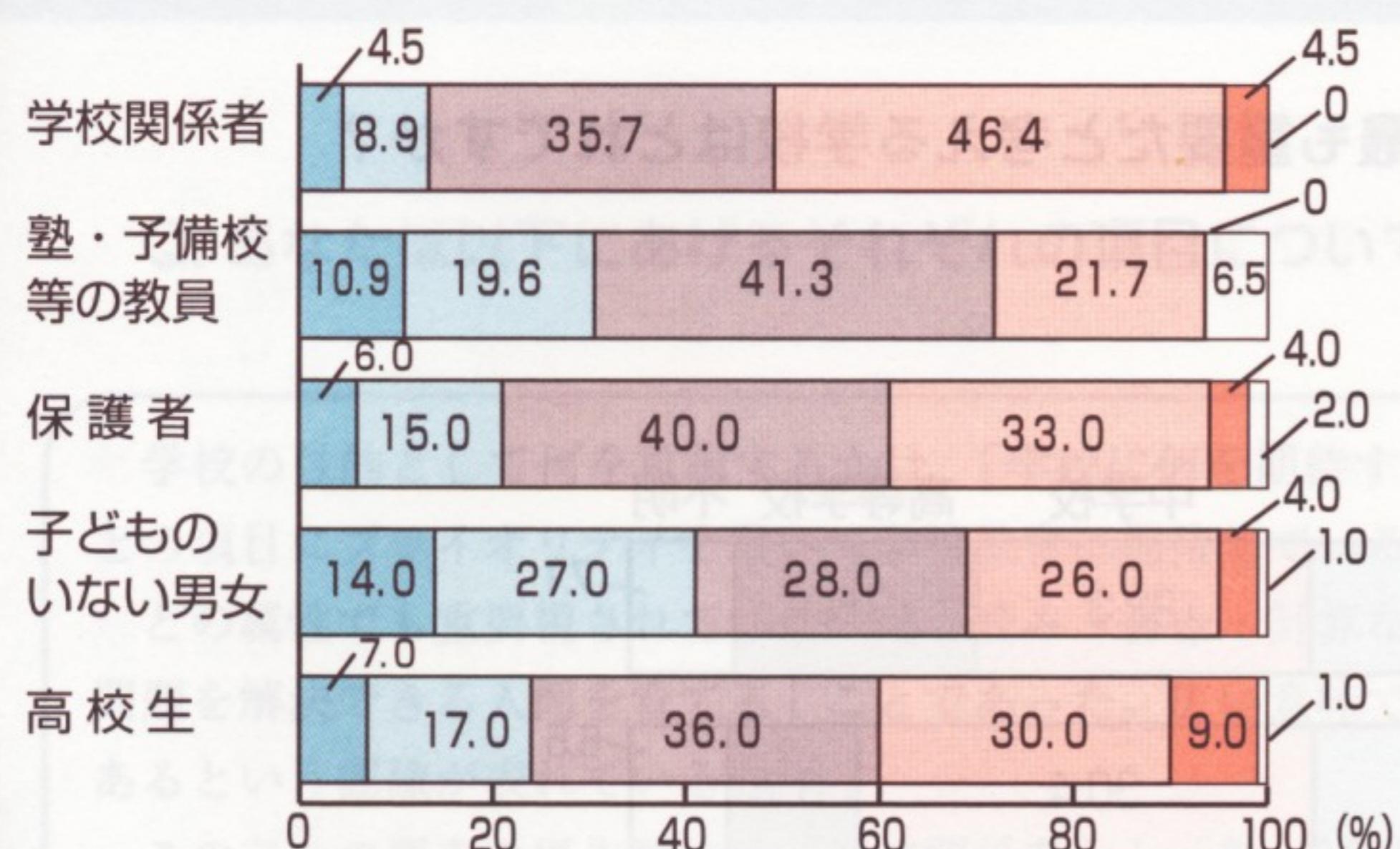
図表 1-1 現在の学校に対する満足度

現在の学校に対する満足度について 100 点満点での評定を求めたところ、全体的に小学校で最も満足度が高く、これに高等学校、中学校と続く結果となった。属性別に見ると、学校教育を担う立場にある「学校関係者」の満足度が高く、「高校生」もある程度満足していることが示されている。一方、学校外の学びの場を担う「塾・予備校等の教員（フリースクール、塾・予備校の教員）」、将来の保護者予備軍を含むと考えられる「子どものいない男女（子どもを持たない 20 代・30 代男女）」の満足度が低い。「保護者（小・中・高校生の子どもを持つ男女）」はほぼ平均に近い中間に位置している。

では、「学校」に対して何が求められ、現在は何が満たされているのだろうか？求められる要素を満たしていくにはどんな施策が必要なのか、学校以外の「学びの場」としてどんな場所や手段があるのかを、このレポートでは探っていく。

小学校

満足度が最も高い



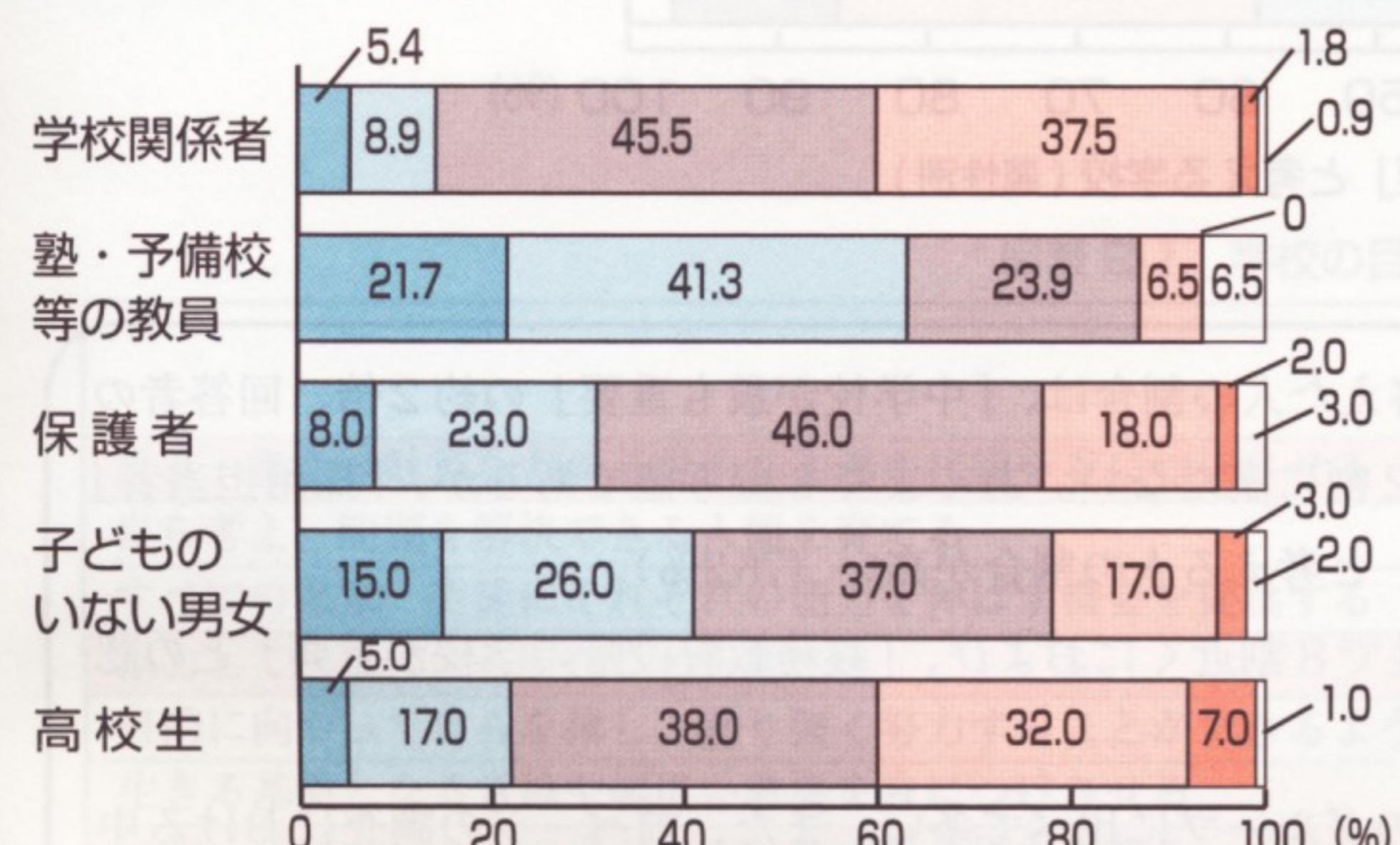
得点分布を見ると、中学校・高等学校では「41～60点」が最も多いのに対し、小学校では「61～80点」が最も多い。小学校に対する満足度は比較的高いと見ていいだろう。

属性間で大きな差はないが、「学校関係者」の満足度は平均60点を超え、他の属性の他の学校への評価を含め、最も高い数値を示している。

小学校に対する満足度が最も低いのは「子どものない男女」(平均48.6点)で、約4割が「40点以下」としている。

中学校

「学力低下」報道の影響か



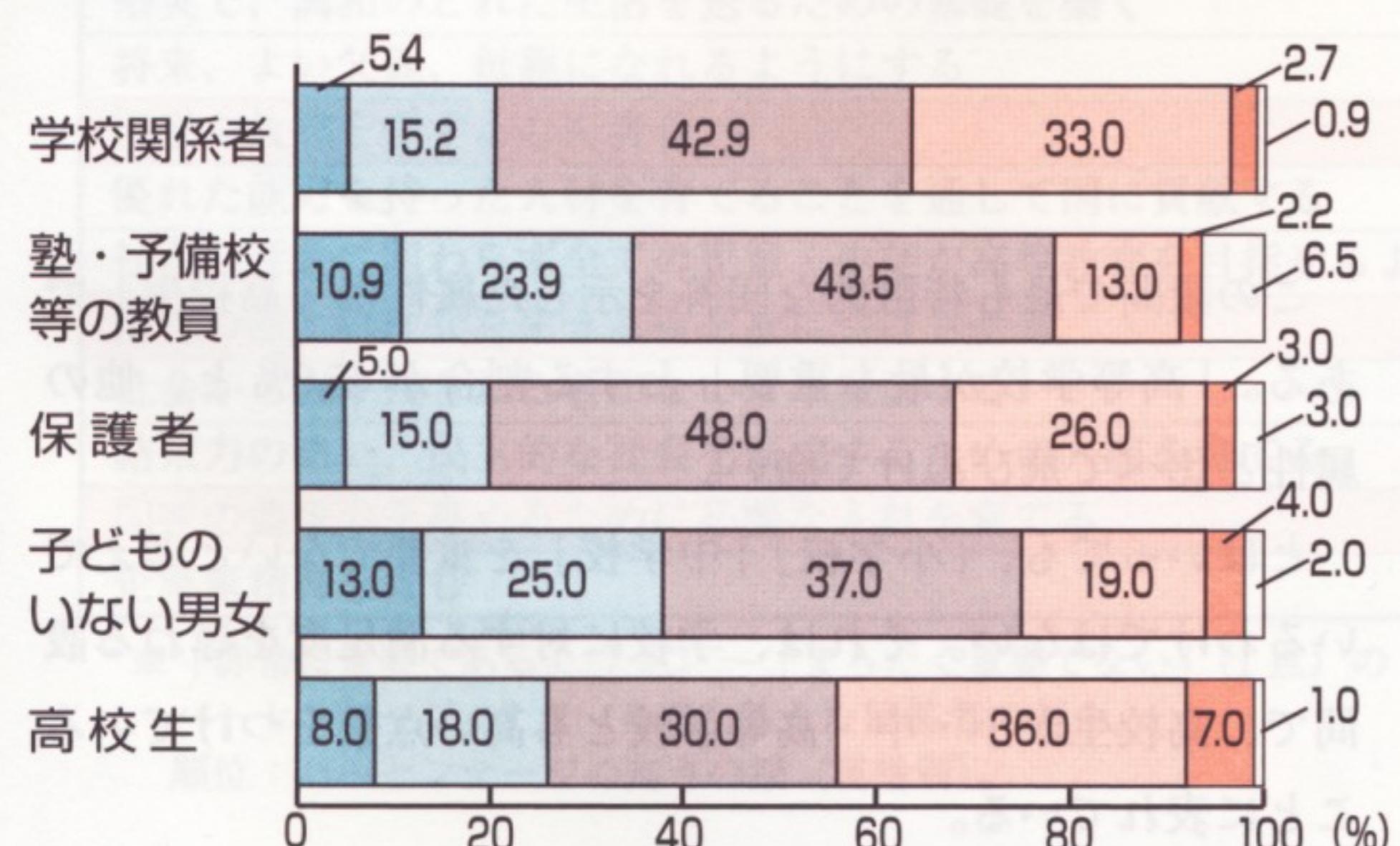
中学校に対する満足度は、全体的に小学校・高等学校に対するそれを下回っている。

属性別には、「塾・予備校等の教員」が突出して低い評価(平均37.3点)を下しているのが特徴的だ。これは、学校外の教育機関であるフリースクールや塾・予備校の教員が、現在の中学校が満たしていない部分を自分たちが担っているという意識が強いためと考えられる。

ただし、中学校を修了したばかりの「高校生」による満足度は平均57.8点と決して低くない。にもかかわらず、「保護者」「子どものいない男女」の満足度が低い背景には、マスコミ報道の影響も考えられないだろうか。

高等学校

ウチとソトで異なる評価



得点分布は中学校と似ているが、平均値は全体的に中学校よりやや高い。高等学校が義務教育ではないという要素が影響していることも考えられる。

属性別には「学校関係者」「保護者」「高校生」の満足度が同程度で、「塾・予備校の教員」「子どものいない男女」を上回る結果となっている。つまり、当事者はそれなりに満足できていることを示す結果であると見ていいだろう。

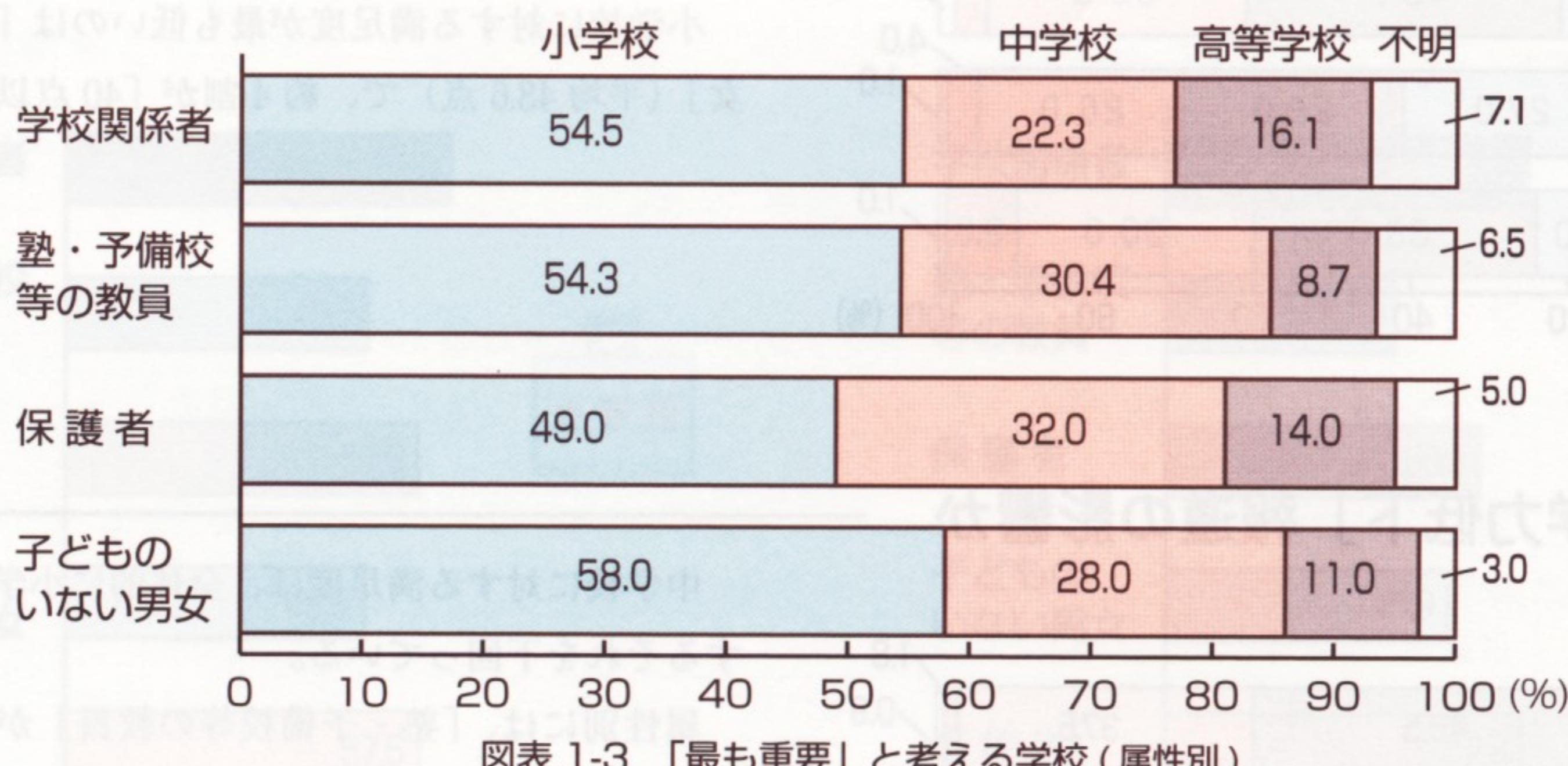
その一方で「塾・予備校等の教員」「子どものいない男女」による採点はいずれも平均48点台と、厳しい見方もされており、属性によって評価が分かれることが特徴である。

図表 1-2 現在の学校に対する満足度



● 2人に1人が「最も重要な学校は小学校」

Q. 小学校・中学校・高等学校のうち、あなたが最も重要だと考える学校はどれですか？

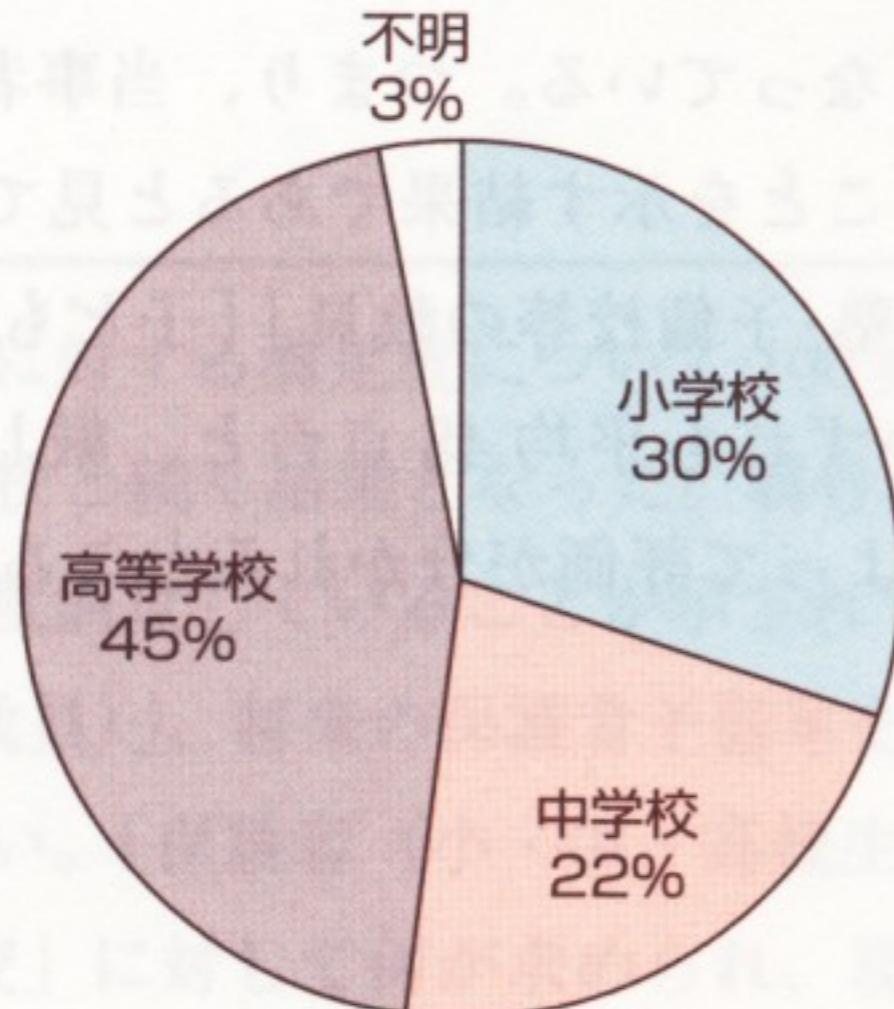


小学校・中学校・高等学校のうち、「小学校が最も重要」と答えた人の割合は、「中学校が最も重要」の約2倍、回答者の2人に1人にある。その一方で、「高等学校」という回答は2割に満たない。あくまでも参考値であるが、「採用担当者」のグループ（サンプル数21）ではとくに、「小学校が最も重要」と考える人の割合が高い（76.2%）。

「小学校」と「中学校」の合計は「高校生」を除く全ての属性で8割近くにおよび、「義務教育段階の学校が重要」との認識がうかがわれる。

ただし、「保護者」は「中学校が最も重要」とする回答が他のグループに比べて多い。また、前ページの調査における中学校への満足度の低さを考慮すると、「塾・予備校等の教員」で「中学校が最も重要」とする割合が「学校関係者」を上回っている点は興味深い。

「いま」が重要だと思える高校生



図表 1-4 高校生が「最も重要」と考える学校

この設問で最も特徴的な回答を示した属性は「高校生」である。「高等学校が最も重要」とする割合が45.0%と、他の属性と比べて飛びぬけて高い。

とはいっても、「小学校」「中学校」を重要でないと考えているわけではない。それは、学校に対する満足度を尋ねる設問で、高校生が小・中・高等学校とも高い点数をつけていることに表れている。

この結果は、高校生自身がかけがえのない「今」を過ごしている「高等学校」を大切にしていることがわかるデータである。学校という学びの場における主役である高校生の回答は、「未来への学校」を考えるうえで示唆にとんでいる。